

●特集. 2018年8月5日 インドネシア、スンバワの地震

(1) 概要

2018年8月5日20時46分(日本時間、以下同じ)にインドネシア、スンバワの深さ31kmでMw6.9の地震が発生した。この付近には、インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレート(スンダプレート)の境界があるが、この地震は沈み込みに伴う地震ではなくスンダプレートの内部で発生した地震である。この地震は発震機構(気象庁によるCMT解)が南北方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

気象庁は、この地震に対して、同日21時19分に遠地震に関する情報(日本への津波の影響なし)を発表した。

この地震により、少なくとも死者555人の被害が生じた。今回の震央付近(領域a)では、同年7月29日にもMw6.4の地震が発生し、死者17人以上の被害が生じた。7月29日の地震の発生以降、地震活動が活発になり、今回の地震に続き、8月19日にもMw6.9の地震が発生し、死者10人の被害が生じた。

(8月29日現在、被害は国際連合人道問題調整事務所(OCHA)による)

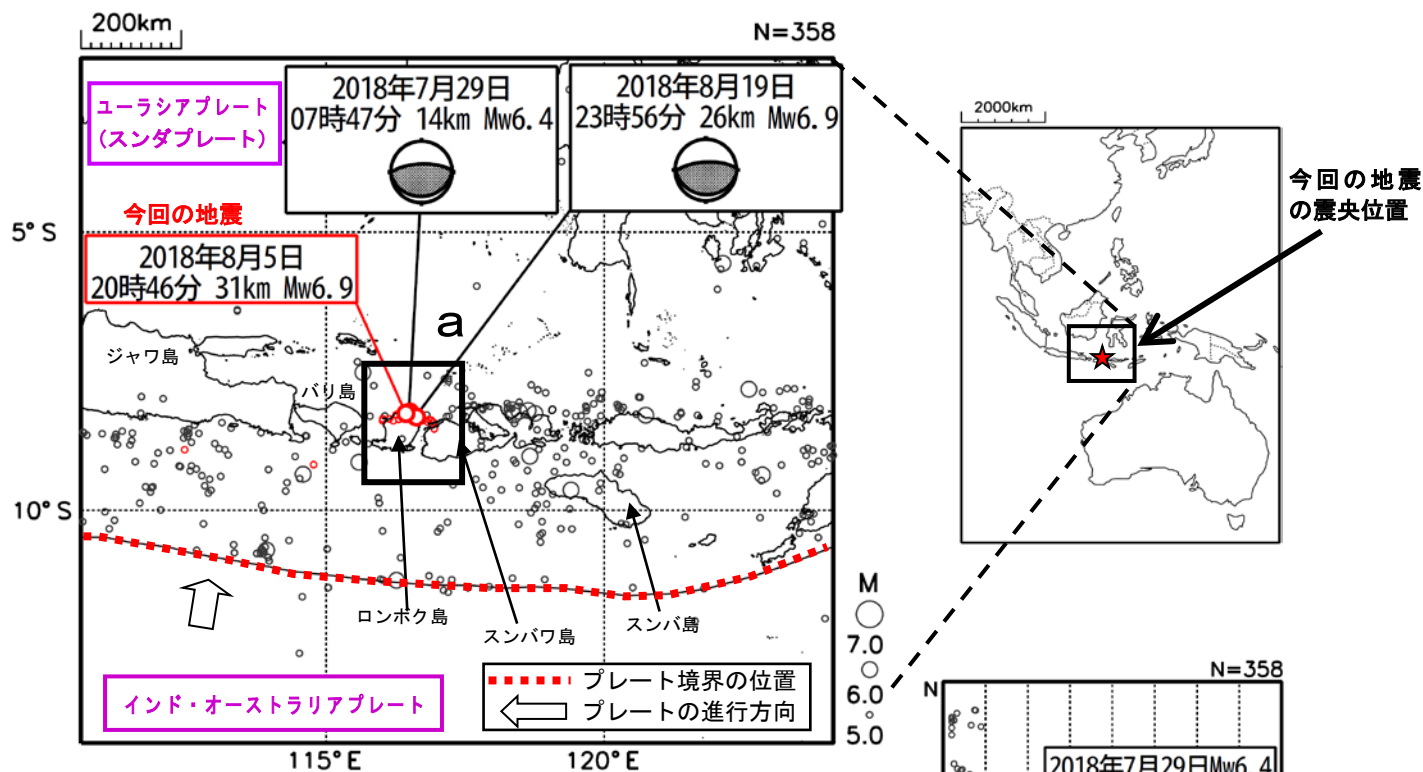


図1-1 震央分布図
(2000年1月1日～2018年8月31日、深さ0～400km、M≥5.0)
2018年7月29日以降の地震を赤く表示

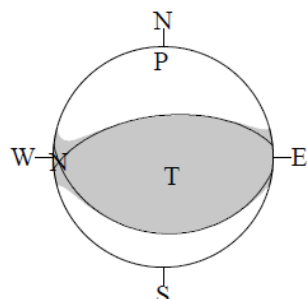


図1-3 今回の地震の発震機構
(気象庁によるCMT解)

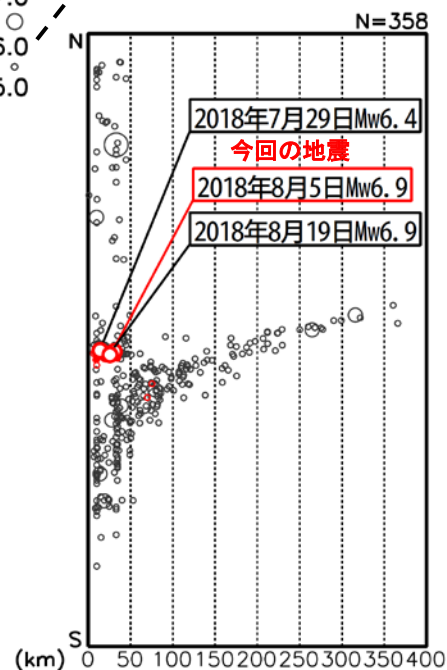


図1-2 図1-1の全領域の断面図
(南北投影)
縦横比を1:2として表示

※本資料中、今回の地震の発震機構及びMwは気象庁、その他の地震の発震機構及びMwはGlobal CMTによる。また、1970年以降の地震のM及び震源要素は米国地質調査所(USGS)による(2018年8月31日現在)。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.